

2017年度は、薬剤師1名欠員と厳しい1年となることを覚悟していたが、幸運にも4月中に新人薬剤師1名を確保し、前年度同様常勤薬剤師7名および事務2名の理想的な体制を維持することができた。また、2017年度はスタッフ2名に新しい家族が誕生し喜ばしい話題も多かったが、その間、事務スタッフ確保や、不在となる薬剤師の業務を皆で補いながら、常に「薬局理念」と「基本方針」を念頭に活動をおこなった。

**[薬局理念]**

患者さんを第一に考えた、安心・安全で良質な薬物療法の提供に努めます。

**[基本方針]**

- ・医療チームの一員として他職種と連携をはかり、医薬品の適正使用を推進します。
- ・向上心を持って自己研鑽に励み、より専門性の高い薬剤師を目指します。
- ・教育・研修を推進し、人として、医療人として暖かみのあるスタッフ育成に努めます。

**2017年度の主な活動**

**1. 人材育成**

2017年度も、日常業務を遂行しながらの人材育成のため、薬剤師によるマンツーマンでの指導が難しい状況のもと、事務スタッフにも協力してもらいながらチームワークで新入職スタッフおよび若手スタッフの育成に取り組んだ。OJTが中心の指導になるが、ベテラン薬剤師がいつでもサポートできる体制構築を行うとともに、経験から学べる環境作りに努めた。また、9月から2.5ヵ月間、実務実習生として2名の薬学生（5年生）を受入れ、いろんな経験の積み重ねと、考える力を養えるよう限られたスタッフと、限られた時間でベストな指導を行うべく取り組んだ。

**2. 外来対応**

外来調剤は2017年度も薬局の中心業務であった。お薬手帳が患者にとって重要なアイテムの一つであることの啓蒙を続けた結果、8割近い患者が持参され、医薬品の適正使用に大いに貢献できていることを実感できた。また、薬局窓口での服薬指導内容を電子カルテに記録することで継続的な評価を行い、アドヒアランスの向上に努めた。2017年度も患者のニーズに可能な限り応えるよう取り組み、一包化調剤や、残薬調整を数多く行い、医療資源の有効活用や患者の負担軽減にも大いに貢献できたものとする。

	2015年度	2016年度	2017年度
一包化調剤（外来）（件）	2,414	2,302	2,293

**3. 病棟業務**

2017年度も「病棟薬剤業務実施加算」を継続取得するために、不在となる薬剤師の業務を皆で補い、質を保ちながら病

棟業務活動を推進させることができた。引き続き、考える力、予測する力、コミュニケーション能力など、経験から学べる環境作りにも取り組んだ。当直業務は行えていないが、薬剤師が毎日いることで、医師、看護師へのサポートをはじめ、リスク管理や医薬品の適正使用にも大きく貢献できたものとする。また、持参薬が非常に多く、タイムリーな鑑別報告書作成が遂行できたと考える。NST回診、ICT回診、緩和ケア回診、褥創回診、DM教室などへも参加し、求められているチーム医療に貢献できたものとする。

	2015年度	2016年度	2017年度
薬剤鑑別（件）	919	1,029	1,186

**4. 抗がん剤および高カロリー輸液の無菌調製**

抗がん剤の無菌調製を開始して7年目になる。2017年度も1年を通して入院・外来を問わず、全ての抗がん剤の無菌調製を行うことができた。当日の急なオーダーに対しても、臨機応変に対応し、特に医師の業務負担軽減（抗がん剤オーダーサポート、前投与薬チェック、副作用予防薬処方支援など）に大いに貢献できたと考える。2017年度は、クリーン・ベンチを利用した高カロリー輸液の無菌調製が大幅に増加した。

無菌調製（件）	2015年度	2016年度	2017年度
抗がん剤	311	144	175
高カロリー輸液	0	20	187

**5. 医薬品ミニレクチャーおよび自己啓発**

2017年度も、薬剤師が病棟および外来に出向き、看護師向けにスモールグループで医薬品に関するミニレクチャーを実施した（年3回）。また、4名の薬剤師が、学会をはじめ各種研修会において計6演題発表を行うことができた。また、毎週1回、業務開始前に医薬品に関する勉強会（メーカ主催および各薬剤師担当の薬局内勉強会）を継続開催し、日々の研鑽とスキルアップに努めた。

**6. 医薬品在庫管理および情報提供**

後発医薬品への切替えを推進し、コスト管理など、経営面での貢献と、高額医薬品の適正管理や期限切れ医薬品の削減に努めた。医薬品情報データベースにはDIニュースをはじめ、看護師向け情報、安全性情報、疾患の基礎知識、研修会案内などを掲載し、情報の共有化・一元化に努めるとともに、いつでも、どこからでも確認できるよう改訂・更新を随時行った。

**今後の課題と展望**

次年度はマンパワー的には厳しい1年となりそうだが、「働き方改革」も意識し、業務効率化と、いつでもサポートできる体制づくりを推進し、チームワークで「安心・安全で良質な薬物療法の提供」を継続していく。